

### 「国際」関連の活動につき

こんにちは。2013年度6月から常務理事を務めております仲と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は国際担当常務理事という役割で、「国際」関連の委員会と常務理事会とをつなぐ仕事（担当常務理事）をしています。「国際」関連委員会には、①国際委員会（国際連携企画や会員の国際派遣の選考を行う）と②「国際賞選考委員会」（国際賞受賞者の選考を行う）があります。また、特別委員会として、③2016年に横浜で開催される第31回国際心理学会議（ICP2016 YOKOHAMA）のプログラム編成等にも携わっています。

今日は①「国際委員会」による、大会での日韓交流、②「国際賞選考委員会」の活動、そして③ICP2016 YOKOHAMAの経緯と状況についてご報告します。

#### (1) 国際委員会：日韓交流

日心による国際活動の一つに、年次大会での日韓交流があります。日心会員が韓国心理学会の大会で発表し、韓国心理学会の会員が日心大会で発表する、というものです。

大会では交互に国際シンポジウムも行っています。2013年度は韓国がシンポジウムを主催する番でした。8月21～24日に韓国のテジュンで開かれた韓国心理学会の年次大会では、韓国、日本に中国も加わった3カ国シンポジウムが開催されました。「災害と心理学」をテーマに、各国2名ずつの報告があり、日本からは大澤智子先生（兵庫県こころのケアセンター）と福岡欣治先生（川崎医療大学）が報告されました。

また、日韓中の学会理事によるミーティングもありました。今後も3カ国で国際シンポジウムを開催していくことや、将来、一緒に雑誌を作っていくという案などが話し合われました。アジアは一つ！という機運が高まっていると感じます。日韓の国際交流や、中国も加わったの3カ国国際シンポジウムに関し、ご要望、ご提案などがありましたら、どうぞ日本心理学会事務局までお知らせください。

#### (2) 国際賞

「国際賞選考委員会」の仕事は、国際賞の受賞者を選考することです。国際賞には、①特別賞（国際的に特段の優れた研究業績をあげ、日

本の心理学の発展に寄与した心理学者を顕彰）、②功労賞（国際学会の設立、実施、運営、その他国際的な活動に功績のあった心理学者を顕彰）、③奨励賞（国際的に優れた業績を持つ中堅・若手の心理学者を顕彰）があり、いずれも会員から推薦された方が選考対象となります。26年度は、1月21日が推薦締め切りで、20人弱の方が推薦されました。これから山岸俊男委員長のもと、8人の委員が選考にあたります。結果は9月の日本心理学会で。講演もありますので、お楽しみに。

#### (3) ICP2016 YOKOHAMA

ICP2016 YOKOHAMAのメッセージは届いていますでしょうか。ICP（International Congress of Psychology：国際心理学会議）は、心理学の国際連合組織であるIUPsyS（International Union of Psychologyの略でアイユーサイエスといいます）が、各国のホスト（2016年度は日本）とともに4年に1度開催する、心理学大会のオリンピックのようなものです。

2004年の北京、2008年のベルリン、2012年のケープタウンと続き、2016年は横浜パシフィコで、7月24～29日の6日間、開催されます。なぜ日本か。日本がかつてICPを開催したのは1972年です。40年を経た今日、国際研究交流における日本のさらなるプレゼンスを高め、心理学が世界に貢献するための連携を強めるには、国際会議が大きな機動力になるだろう、という当時の理事会の判断による招致でした。

ICPの開催はオリンピックと同様ビディング（競争入札）で決まります。日本で開催は2011年にメルボルンで行われたICAP（国際応用心理学会）のIUPsySの会議で、投票により決まりました（盛り上がりましたよ!）。

日本のテーマは「Diversity in Harmony：調和のなかの多様性」。数多くの招待講演、招待シンポジウム、そして日本の実行委員会が企画する「目玉シンポジウム」。広く世に向けた講演や、若手部会による提案も楽しみです。口頭発表、シンポジウム、ポスター発表へのアブストラクト投稿は2015年春過ぎになりますので、どうぞ投稿の準備をお願いいたします。

また、2014年7月8～13日にパリで開催されるICAPに参加される会員の皆様、ぜひ日本ブースにお立ち寄りください!

それでは今日はこのへんで。また次号で。

（国際担当常務理事・北海道大学教授 仲真紀子）